

日本盲導犬協会における 視覚障害リハビリテーションについて ～鉄道利用講習会の活動報告～

日本盲導犬協会仙台訓練センター
視覚障害サポート部 大谷 孝典

日本盲導犬協会仙台訓練センターについて



東北地方唯一の盲導犬
育成施設であるとともに、
視覚障がいリハビリ
テーション事業の実
施拠点

- ・ 竣工 2001年4月
- ・ 敷地 6,259m²
- ・ 床面積 1,899m²
- ・ 住所 〒989-3163
宮城県仙台市青葉区茂庭字松倉12-2
- ・ 職員数 24名
- ・ 盲導犬育成数 令和7年度 6頭
- ・ 視覚リハ職員数 4名 (うち歩行訓練士3名)
- ・ 対象地域 東北6県 及び 新潟県

視覚障害リハビリテーション事業の内容

- 訪問型訓練（在宅生活訓練）
自宅及び希望する場所に訪問して訓練を実施
1回1時間半～2時間程度、無料
※病院等に出向いての中間型アウトリーチ支援も含む
- 短期リハビリテーション
仙台訓練センターに4泊5日宿泊し、集中的に訓練を実施
75分1コマとして計17コマ、費用9,000円
他に、中学生向け、出張型短期リハを実施（2泊3日）
- その他
講習会（当事者・支援者）、相談（電話・訪問）、白杖選定、
用具紹介（非販売）、子ども向けキャンプ…etc

鉄道講習会について

JRの積極的な協力と、事前の
打合せて実施が実現★

見えない・見えにくい方の安全な鉄道利用のための歩行講習会

対象：視覚障害がある人（手帳の有無は問わない）

費用：無料 募集人数設定：6～12名（回ごとの状況による）

①体験

音声での券売機の使い方、改札の通過方法

ホーム歩行、停車中の電車で乗降練習

② JR職員の講話と質疑応答

電車を利用する際の支援の受け方

日頃の疑問点などの質問

時間
2時間15分

鉄道利用における課題

不安点

タッチパネル式券売機での切符購入

改札から駅ホームまでの移動

乗車ホームの位置、乗降方法、座席の確保と場所の理解

乗り換えなど

地域特有の状況

外からボタンを押さないと開かない車両がある

郊外に出ると無人駅が多い、駅員が少ない

鉄道講習会 当日スケジュール（例）

10:00 開会挨拶

10:05 オリエンテーション

10:15 券売機で切符購入体験（テンキー入力による音声機能紹介）

10:35 ホームへ移動。その後ホーム歩行、電車乗降訓練実施。

※訓練後に取材対応有り

11:15 会議室に移動

11:30 会議室にて、事前に利用（援助）予約をする方法の解説（JR職員）
その後質疑応答

12:00 感想・まとめ

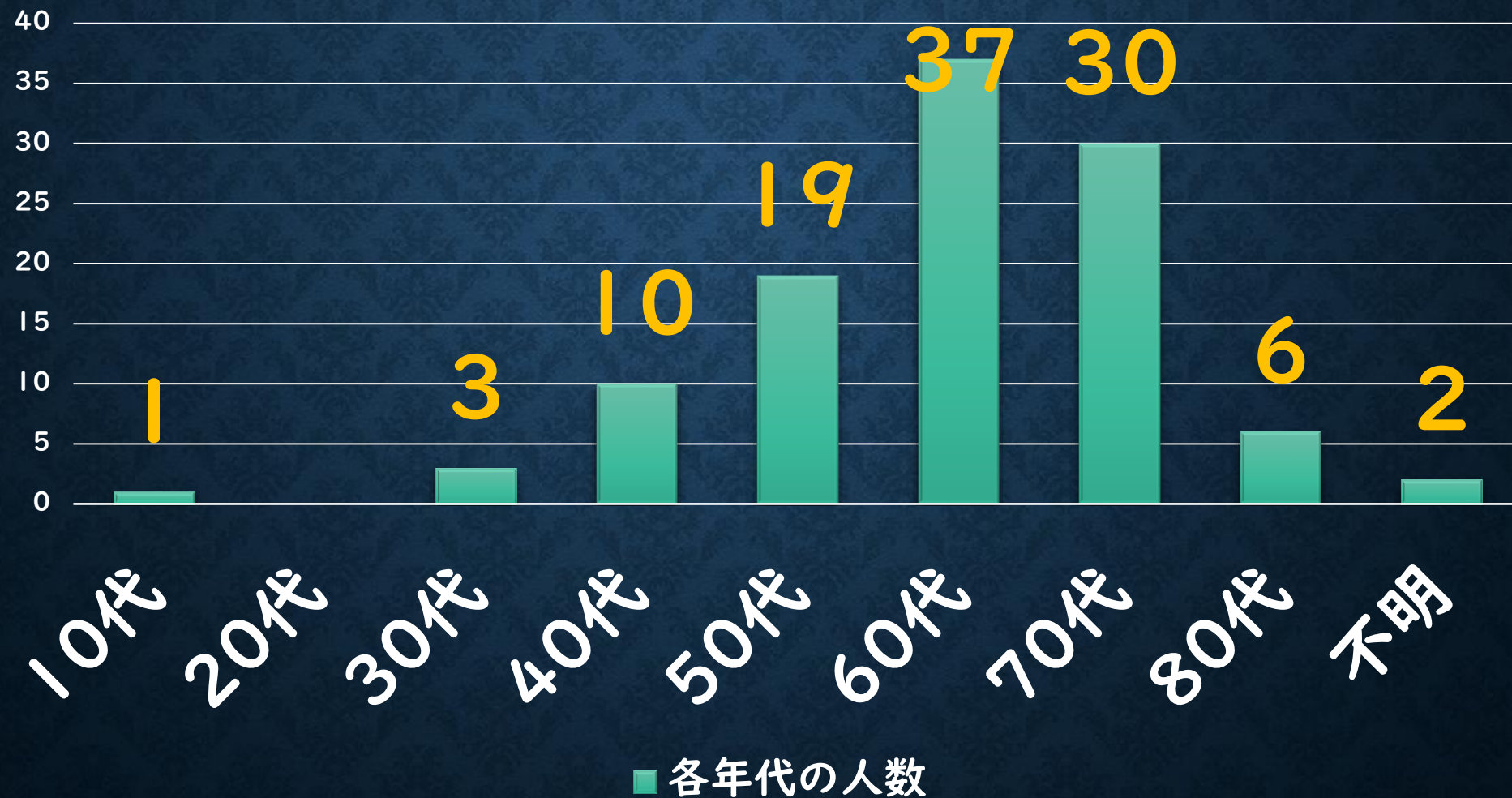
12:15 終了・解散

過去の開催状況と参加人数

2018年度	仙台駅	12名
2019年度	仙台駅	11名
2020年度	福島駅	10名
2023年度	仙台駅	10名
2024年度	山形駅、秋田駅 青森駅、盛岡駅	8名、6名 6名、6名
2025年度	山形駅、青森駅 郡山駅、仙台駅(2回)	8名、5名 8名、11名、8名

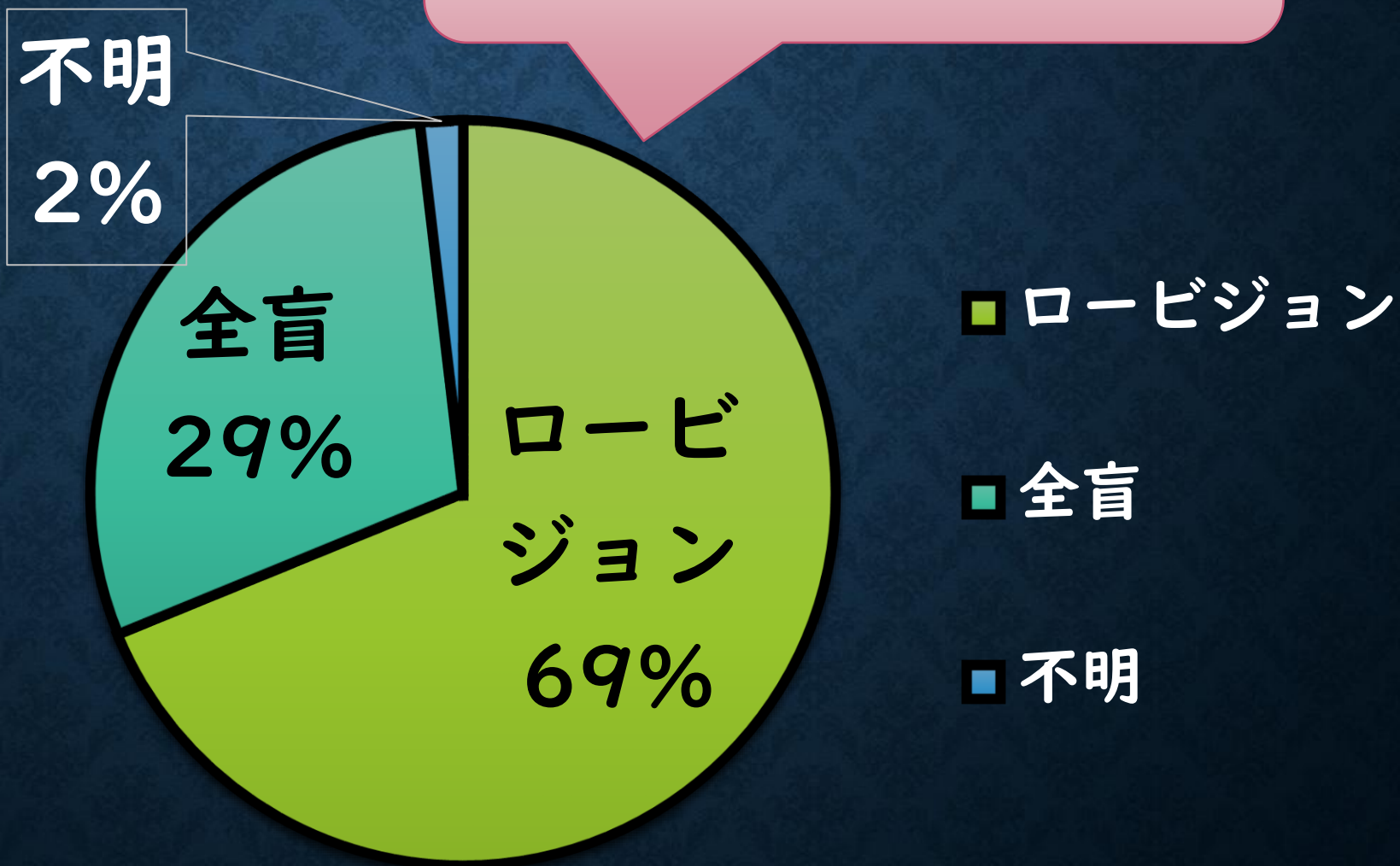
109名

年齢構成



視覚障害の程度

歩行手段の割合は
白杖使用者が8割



講習会の様子



写真1
音声を利用した券売機の使い方の紹介



写真2
ホーム歩行（点字ブロック
の内方線を確認）

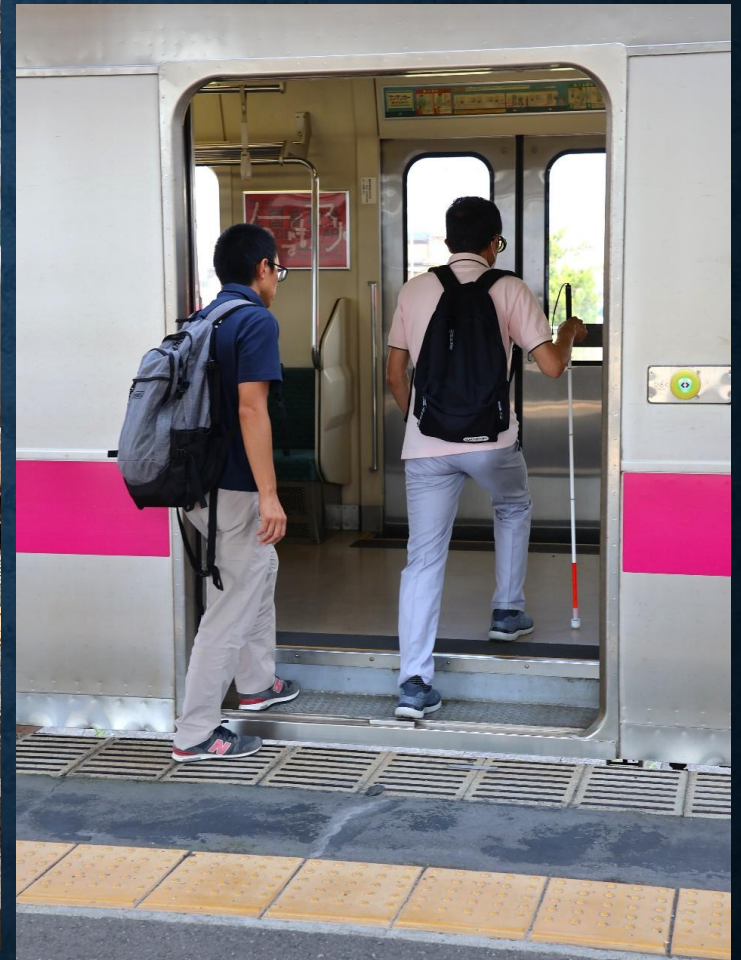


写真3
乗降練習（車内入口に段差がある）

参加者感想（一部抜粋）

- 電車の乗り方も電車の車体を**実際に触って確認**できて良かった。（全盲80代男性）
- ホームから落ちた時どうすれば良いかなど**考えたこともなかった**。対策を考える良い機会になった。（全盲50代女性）
- **駅はよく利用するが、知らないことが多かった**。駅員のサポート体制も知ることが出来て良かった。（LV60代女性）

実施したことによる効果

参加した視覚障害者

- 移動の選択肢が増加
- 自分は転落しないという楽観的思考の軽減
- 鉄道利用時の白杖の必要性を知るきっかけ

参加していない視覚障害者（メディアを活用して）

- 「今度は自分も参加してみたいと思った」
- 視覚障害リハビリテーション事業を知るきっかけとなった

実施したことによる効果

鉄道会社

■ 視覚障害者のニーズと危険性の共有

→講習会実施前の現地打合せで、視覚障害者の困りごとが伝わっていなかったり、イメージができていなかったり、中には設置してある設備についても曖昧な理解であったことが分かった。講習会を通して、具体的な当事者の困りごとや対処方法などが分かり、質疑応答での受け答えを通して双方に良い影響があると実感した。